

Y06b 星のソムリエみたか・星空案内人養成講座の実施とその評価 - 科学文化による地域再生を目指して -

縣秀彦、有本信雄、石川直美、石崎昌春、梅本智文、川邊良平、田村元秀、平井明、室井恭子、(国立天文台)、内田治、大朝摂子(三鷹ネットワーク大)、柴田晋平(山形大)、佐藤理絵(小さな天文学者の会)

星空案内人(星のソムリエ)資格認定制度は、平成18年度に山形大学とNPO法人小さな天文学者の会が中心となり、やまがた天文台でスタートした制度である。NPO法人三鷹ネットワーク大学推進機構と国立天文台は、平成19年度から講座を開始し、この制度に基づく人材養成を全国3番目に開始した。初年度20名募集のところ予想を大きく上回る174名からの応募があり、多彩な応募動機より市民一人一人の星・宇宙との関わりや想いに改めて天文学はみんなの科学であることを認識した。本講座は、天文学や科学一般の普及活動・生涯教育活動等を促進する活動に寄与することを目的とし、「独自に観望会が開けるレベル(ソムリエ)」と、「望遠鏡の使い方等を理解して観望会の開催を補助できるレベル(準ソムリエ)」を資格認定のレベルとして想定している。「準ソムリエ」を取得した人は、市内の小中学校などで開催する観望会等のサポートスタッフとして、実地で研修を受けつつ活躍する場が用意されている。「星のソムリエみたか」は、「天文台のあるまち」三鷹とその周辺を中心に活躍する「星空案内人」の誕生を支援するしくみであり、今後、多くの市町村で同様の講座が開講されることを強く希望する。実際の講座は、7月20日より開始され8月31日-9月2日の川上郷自然の村(長野県)での合宿等9回の講義・実習により星空案内の知識・技能を身につけていただく予定である。本講演ではその内容と受講者からの評価、指導者側から見た制度の改善点等を速報する。